NO. 2011.14 号
発行日：2011 年 10 月 24 日

検査のパレット

今回は、四肢誘導の電極取り付けポイントについてお話します。

1）心電図検査をする時は、時計やブレスレットなどの金属製品ははずしてください。
交流障害の原因となる事があります。また、ケラチンクリームに含まれている塩分により金属が汚染される可能性もあります。

2）手首・足首は 15 センチくらいでるようにしてください。
留置針がある場合もあります。衣服をまくり上げる時は気を付けてください。

3）右手：赤色電極、左手：黄色電極、左足：緑色電極、右足：黒色電極を取り付けます。
ケラチンクリームはクリップ電極の金属部全面に付けます。取り付ける位置は、体毛の少ないところで、手首・足首から握り拳ひとつ分、中央側に取り付けます。
汗をかいている場合、基線が上下にうねること（ドリフトといいます）があります。また、皮膚が汚れている場合は、電極の接触不良による障害をおこしますので、アルコール綿又はそれに類する物で拭いて、クリップ電極を取り付けるようにしてください。

4）手足にクリップ電極が使用できない場合の対応方法についてお話します。

＊　片足しか電極を取り付けられない場合
金属部分が接触しないように、両クリップ電極を取り付けてください。

＊　上肢に電極を取り付けられない場合
クリップ電極を予備の吸着電極（心電計の手前のかごの中の袋にあります）に変えて、肩のあたりに取り付けてください。

＊　四肢の振戦が著しい場合
上記と同様に、吸着電極に変えて、振戦の少ない肩や大腿部（もしくは腸骨あたり）に取り付けてみてください。

5）上肢の付け間違えがないかを確認する方法についてお話します。
Ｉ誘導の P 波が上向き凸、その次に続く QRS 波がおおむね上に優位な波形であればＯＫです。QRS 波が下優位な場合は、右手赤色左手黄色を再確認してください。
（ただし、右胸心の患者様の場合は、P 波・QRS 波も下優位です。）

☆　今流行の漫画にもじって、【ワンピースウ】と覚えてみてください。

ワン　：　Ｉ誘導
ピー　：　P 波（QRS 波も）
ス　　：　すべて
ウ　　：　上向き優位　　いかがでしょうか？

また電極をはずす時も、確認しながらはずすようにしてください。

次回は胸部誘導の電極取り付けポイントについてお話します。

文責：藤谷　恵子　　監修：石竹　久仁